

令和6年度 学校評価表

品川区立後地小学校

校長 西川 幸延

後地小学校校区教育協働委員会

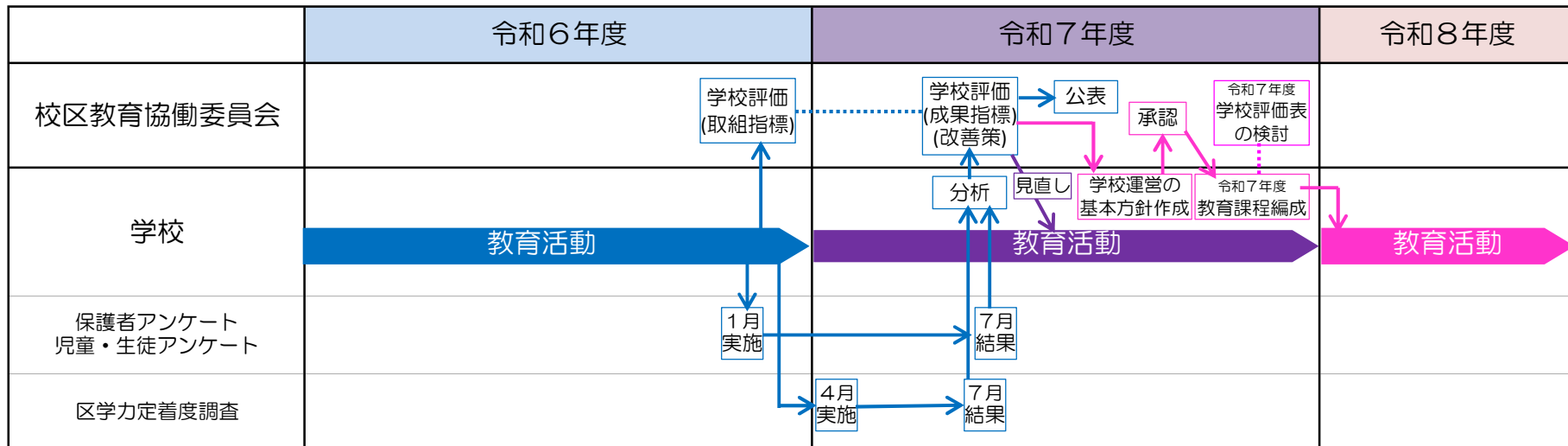
委員長 鈴木 聡

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和6年度の学校評価が令和7年度および令和8年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和6年度 学校評価 品川区立後地小学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		◎義務教育9年間の6年間を通して、学力の基盤を定着させる。 ・基礎的基本的な学力を確実に身に付ける。 ・「学習ルール10」の指導を徹底する。 ・東京ベーシックドリルなどを活用した個別指導の充実を図る。 ・校内研究や授業観察等から教員の指導力の向上を図る。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	「学習ルール10」の指導項目を月ごとに重点化し、学年・学級での学習規律を明確にし実践する。	毎月、児童へ学習ルール10に関する自己評価を行うことで、意識づけを行うことができた。	A	・学習ルール10に関する自己評価を学年・学級で重点化することをさらに重視していく。 ・できない児童に対しての指導について、自己申告等を活用し、具体的な改善策を提示させ取り組むようにする。
	2学期末までに、「学習ルール10」を9割以上の児童に定着させるために、自己評価等を活用し、改善策を考え実施する。	自己評価の結果からは「できる」「概ねできる」を合わせて9割は達成できたが、「できない」児童への改善策まで考えられなかった。	A	
②	区学力定着度調査で、標準スコアを前年度より高める。	学年別、項目別17項目中10項目で達成。(59%)前年度は10項目で達成。(59%)理科に課題がある。	C	・前年度と比較するとそれほど変わりがない。引き続き15項目達成できることを目標に取り組む。 ・課題であった理科が課題である児童の興味関心を高める導入の展開を引き続き進めていくと共に、指導課訪問等での指導も重視する。 ・日々の授業観察を活用し、学級の状況を十分に把握して、朝や放課後なども使って個別指導を更に徹底していく。
	学習のめあてを板書し、学んだことを振り返る時間を設定することで、一単位時間の学習内容を定着させる。	学習のめあてとまとめを毎時間板書するように徹底を図るとともに放課後の時間を活用し板書についての指導を行った。	A	
	授業中の個別指導や、放課後等の補習授業など充実させる。	授業以外の補習授業を児童の実態に応じて行うことができた。日々の授業観察でつまずきのある児童を確認し、担任に指導するよう助言した。	A	
③	全学年で授業研究を実施し、教員の授業力を向上させる。	研究発表もあり、全学年で研究授業を実施することができ、指導助言を行うことができた。	A	・講師を招聘しての研究授業を年間5回行うことができたことで、研究に関する意識が高まった。令和6年度の研究発表会を通して、授業力の向上を図ることができた。 ・初任者を中心に若手教員が授業参観をできるシステムづくりができた。自己申告の授業観察に併せて、多くの教員から指導法を学び、振り返る流れを引き続き行っていく。
	年3回の授業観察を活用して、教員が参観できる環境をつくり、多くの教員から助言をもらえる環境をつくる。	研究発表もあり、全学年で研究授業を実施することができ、指導助言を行うことができた。	A	
	若手教員の授業を毎週観察し、指導力の向上を図るよう指導する。	若手教員の授業は一日1回以上観察することができた。指導等については月に1回程度にとどまった。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和6年度 学校評価 品川区立後地小学校

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		◎「あいさつ」「時間」「約束」「役割」の指導を徹底する。 ・「笑顔とあいさつ 後地スマイル宣言」を推進する。 ・言葉遣いの指導を重点とする。 ・教員と児童の信頼関係を構築する。 ・社会的な役割や社会の一員としての自覚をもたせる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	教員は挨拶や礼儀、場に応じた行動を率先して行い、一貫性をもって児童に対して、毅然とした態度で指導する。	教員が正しい言葉遣いをするための徹底により、児童も場に応じた言葉遣いができるようになった。	A	・教員から児童へ挨拶することの徹底を更に図っていく。 ・全校朝会やあいさつの日等を活用して、あいさつすることの大切さをさらに理解させ習慣化させていく。
	9割以上の児童が、挨拶、返事、正しい言葉遣いができるようにする。	毎日の授業観察で校長から挨拶をすることや、廊下での挨拶を徹底することで、挨拶することの習慣化を図ることができた。	A	
②	生活指導の5項目の中から重点項目を毎月決め指導するとともに、学校のきまりを意識した規範意識を高める。	毎月、児童へ生活指導の5項目に関する自己評価を行うことで、意識づけを行うことができた。	A	・生活指導の5項目に関する自己評価を学年・学級で重点化することをさらに重視していく。 ・できない児童に対しての指導について、自己申告等を活用し、具体的な改善策を提示させ取り組むようにする。 ・月目標の徹底は進んできた。次年度も、月初めの全校朝会にて校長講話で徹底を図る。
	2学期末までに、生活指導の5項目を9割以上の児童に定着させるために、自己評価等を活用し、改善策を考え実施する	自己評価の結果からは「できる」「概ねできる」を合わせて9割になったが、「できない」児童への改善策を考えるまでには至らなかった。	A	
	学校のきまりを意識させる取組を行うために、今週の目標と連携していく。	学校のきまりより、「月の目標」についての徹底を先に図るよう全校朝会の話に取り入れた。	B	
③	地域との関わりを重視した取組を充実させる。	地域のお祭りもコロナ前に戻り、子ども達も関わる状況が多く見られた。	B	・あいさつの日、校長が率先して地域巡りをし児童へ、地域住民への挨拶を行うよう声掛けをした。 地域祭りでは、校長が参加し連携を深めるとともに、教員の参加も促し連携を強化していく。 ・地域清掃は児童にとって、地域をきれいにしようという意識が高まった。引き続き地域清掃を行い、児童の意識を高めていく。
	「あいさつの日」を意識させ、地域の方々に進んであいさつができるようにする。	児童は、「あいさつの日」を意識して登校することができ、地域の方々へあいさつをすることができた。	A	
	地域清掃を行うことで、地域との関わりを深くする。	今年度も、地域の公園や施設での地域清掃を行うことができ、日頃から遊んでいる場所を大切に使う気持ちが身に付いた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和6年度 学校評価 品川区立後地小学校

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○東京都小学校体育研究会 研究協力校として、児童の実態を踏まえた体力向上の取組や、健康に関する取組を重視する。 ・体育科を中心とした校内研究を行う。 ・年間を通して、体力向上に関する取組を行う。 ・規則正しい生活習慣を身に付ける取組を行う。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	東京都小学校体育研究会 研究協力校として体育科を中心とした校内研究を行い、体を動かすことが好きな児童を育成する。	研究協力校として、体育科の授業研究を充実させ研究発表を行うことができた。	A	・若手教員が多いが、一人一人が指導法を学ぶために意欲的に研究することができたので引き続き研究を進めていく。 ・東京都小学校体育研究会研究協力校としての研究を生かして、体育科の指導力の向上を図る。
	体育の領域を昨年度の研究領域に加え、「器械運動系」「陸上運動系」「ゲーム」を研究していく。	校内研究や研修を通して、体育科における教材研究等の行い方を学ぶことができた。	A	
	東京都小学校体育研究会の各領域部会と連携し、実技研修会や指導案検討など、連携を深めていく。	発表する領域部会との連携を充実させたことで、教員の指導力の向上を図ることができた。	A	
②	体育以外の時間でも体を動かす楽しさが学べるようにする。	年間を通して、スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズを行うことができた。	B	・スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズもできる範囲での取り組みとなった。今年度も運動委員会の児童活動は計画段階で止まっているので、まずは実施し課題等を見付けながら改善していくようにする。 ・キラスポやあそびバ！ラボの取組が継続し定着できるよう担当者と連携を図る。
	休み時間等を活用し、学級単位で運動できるようにする(キラスポ)。	学級単位のキラスポの取組は児童の体力向上の一端を担えた。	A	
	放課後遊び事業(あそびばラボ)を週一回実施していく。	放課後遊び事業も定着し、子どもたちも楽しく遊ぶことができた。	A	
③	「早寝・早起き・朝ごはん」等の健康に過ごすことの大切さを身に付けるようにする。	規則正しい生活習慣を身に付けると共に、手洗い等の取組も行うことができた。		・児童からも今頑張っていることの一つとして規則正しい生活習慣に関する発言が多くなってきた。意識啓発ができていく。健康教育の全体計画を更に充実させていく。 ・東京都小学校体育研究会研究協力校としての研究を生かした授業展開を行う。
	保健だより等で啓発するとともに、市民科一貫プランでも位置付け取り組んで行く。	健康教育の年間計画との関連から「早寝・早起き・朝ごはん」の必要性について考えることができた。		

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和6年度 学校評価 品川区立後地小学校

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		◎早期発見、早期解決で解決を図る。 ・全教職員の情報共有で全校で指導する。 ・常時、いじめ等対策委員会を機能させる。 ・「笑顔とあいさつ」の実践を推進する。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	いじめに関する実態調査を重視する。	毎月の生活指導委員会で各学年の状況を共有することで、いじめ問題の早期発見・早期解決を図ることができた。	A	・実態調査は、未然防止・早期発見につながった。引き続き実施していく。 ・アンケート調査を随時行えるようにし、いじめが起こった際に活用する。
	新たな区の調査に加え、学校独自に年3回調査を行うことで、児童の様子を常に見とる環境をつくる。	学校独自のアンケート調査を行うことで、より細かく児童の実態を把握することができた。	A	
②	いじめ事案を3か月以内に100%解決する。	いじめ事案が起こった場合は3か月以内に100%解決することができた。	A	・取組としての成果は見られたが、事案数が少なかったこともあり、課題意識をもつことに課題が残った。単なるトラブルと解決せず、記録を残していく。 ・児童のサインを見逃さないように日頃から担任と児童との関わりを密にしたり、児童が相談しやすい環境整備を更に進めたりする。
	生活指導の打ち合わせを毎週行い、早期発見、早期解決の組織的対応をする。	生活指導夕会等で各学級の実態報告を行うことで、学校全体で共有することができ、早期発見・早期解決することができた。	A	
	いじめ等対策委員会を月に1回開催し、共通理解と全校取組を推進する。	いじめ等対策委員会を月に1回開催することができ、共通理解と全校取組を推進することができた。	A	
③	児童アンケートで学校生活の肯定的な評価を前年度より高める。	児童アンケートでは、肯定的な評価が多かった。	A	・いじめのない人間関係を構築することがいじめ対策には必要なことである。その取組を充実させるためにも、担任と児童との関わりが十分に保てるよう、放課後の時間を有効活用できる校務体制を進めてきた。 ・放課後に子どもと遊ぶ教師も出ているのでさらに校務体制の精選を行っていく。 ・いじめに関する授業を中心に他者理解を高めていく。
	「笑顔とあいさつ 後地スマイル宣言」のキャラクター「キラリン」を象徴とした取組をする。	土曜日授業の際には、「キラリン」のバッジを全校児童がつけ、いじめ根絶に向けた意識を高めることができた。	A	
	他者理解を高める、前年度までの研究を生かした実践を継続する。	いじめに関する授業を年間3回行うことで、他者理解が深まった。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		◎「立腰教育」で児童の自立と自律を育む。 ・始業時、終業時に意識させる。 ・配置された可動式の机・椅子を活用して、児童に合った立腰姿勢ができるようにする。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	児童の9割以上が腰骨を立てた姿勢で座ることができる。	教員の声掛けが多くなり、90%以上の児童が意識して取り組むことができた。	A	・全校朝会や立腰教育に関する授業を実施したことで、児童の意識が高まった。引き続き、学期に1回程度、腰骨の立て方について指導を行っていく。 ・授業観察の際には、児童へ直接「校長先生が教えた腰骨の立て方をやってみましょう。」と言って直接指導を行い続けたことで、腰骨を立てることに意識が高まった。引き続き行っていく。
	授業の始業時、終業時に意識と行動を高める声掛けをする。	授業の始業時、終業時に意識と行動を高める声掛けをしたことで、腰骨を立てることの大切さを学ぶことができた。	A	
	全校朝会や市民科一貫プランで「腰骨を立てる」ことのよさについて指導していく。	可動式の机やいすを全児童が使えるようになり、計測後に、自身の身長等に合わせて使うようになった。	A	
②				
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成